

洋書輸入協会会報

VOL. 7
NO. 2

(通巻70号) 昭和48年2月

理事会報告

1月10日(水)

- (イ) 中田理事長代理から新年にあたって挨拶あり。
- (ロ) Pergamon Press Ltd. とのその後の交渉経過について報告があり、対策を検討。
- (ハ) The Publishers Association (London) の Book Development Council から、英国書籍の世界各地における販売価格についての調査をおこなっているのので協力してほしい旨の連絡があったので、それに対する解答について検討。起草を渉外委員会に委任。
- (ニ) その他

1月26日(金)

- (イ) Pergamon Press Ltd. および Book Development Council への回答について渉外委員会から報告。
- (ロ) Pergamon Press Ltd. との交渉経過の会員への連絡について検討。理事会名で印刷を配布することとなる。
- (ハ) オーストラリアの新レートについての報告あり。
新 \$ A 1.00 = U S \$ 1.275 (¥392.70)
旧 \$ A 1.00 = U S \$ 1.216 (¥374.53)
- (ニ) 文化厚生委員会から本年のフランクフルト書籍展視察団の計画について報告あり。(16日間¥348,000)
- (ホ) Directory 編集委員会から進行状況についての報告あり、また外国への宣伝については、会員の協力を求めて、サーキュラーを各国の出版社へ送ることとする。
- (ヘ) その他

新年親睦パーティー

1月8日(月)、丸の内フレスクラブで5時から開かれた恒例の協会新年会は、今年から準会員、賛助会員の新しい顔ぶれも加わられて、いっそう盛大な交歓会になった。会場には定刻前からぼつぼつ集られた方もあって、参会者145名、受付の私たちはつぎつぎ見える皆さまとの応接に多忙な、楽しいハーティであった。

和やかな歓談のうちに渡辺文化厚生委員長の開会の辞で幕はあき、理事長代理の丸善・中田常務の年頭の挨拶、そしてこれも恒例となった Rep. 代表の C. B. S. 国際教育出版のヒューラン氏の日本語での挨拶がまた和やかさを加えた。

国際通貨不安の波を切抜けながら、今年はまた円の再切上げも予想されている日まぐるしい日々がすぐ続いているのだが、年々狭くなる会場には、賑やかな新年の談笑の渦が、散会の8時まで絶え間なくつづいていた。（白水社・本田）



文化厚生委員会だより

各 同 好 会 納 会 開 催 さ る

★囲碁同好会の納会は去る12月4日九段の大周楼に於て日本棋院の石毛七段、時本三段の二専門棋士を招き、渡辺文化厚生委員長以下21名参加、一年間を締めくくる熱戦が展開された。折から震度4の地震に見舞われたが、盤面から目を離さぬ程の熱中ぶりであった。

★ゴルフ同好会の打ち納めは暮も押し迫った12月25日天城C Cに山川会長以下16名参集、第3回コンペを兼ね27ホールズストロークプレーで举行された。前日の大量降雨でコースコンディションは最高ではなかったが技量でカバーし下記の通り上位入賞者が決定した。

1位 尾崎（伸興通商）141（34.5）106.5 2位 斎藤（U P S）134（19.5）114.5
3位 上杉（U P S）159（42） 117

（岡 幹事記）

お知らせ（通関委員会）

◇東京税関東京外郵便出張所の Book 通関担当が、輸入第2部門から輸出部門に移管されました。今後は輸出部門（窓口4番）で手続をしてください。担当官は次の方がたです

柏	山	統括審査官
やま	しき	
山	舗	審査官
和	田	事務官

◇これまで Book 通関を担当された田中事務官は、2月1日付にて東京税関羽田税関支署へ転勤されました。当協会員に対し Book 通関手続についてご指導いただきましたことを感謝いたします

◇JBIA No. 147（昭和46年12月30日）の原産国（地）符号表に下記の誤りがありましたので訂正願います。

	正	誤
イスラエル	1437	1487

日本に来た最初の英国人

—— 安針町と八重洲町の由来 ——

八 木 佐 吉

江戸時代初期以来の日本橋の町名「通町（丁）」の名がこの1月から消えて、日本橋何丁目に変わってしまった。通何丁目とあれば江戸時代は勿論、東京になってからでも日本橋と頭記しなくても日本橋のそれときまっていたのである。何のための改名か、誰がどうしてきめるのか、ともかく裁判所でもお取り上げにならなかった程の世の中が物淋しい。

さて表題のような話を数年前に書き留めておいたのに少しく筆を加えてみた

八重洲口というと、今では東京駅の東側の乗降車口で、その前面に広がっている町並みが、中央区の八重洲（町）である。このことは、大げさに言えば日本中に知れ込んでいるといってもよい程であろう。しかし、この呼び方は二十数年前、戦争の終わった後、しばらくしてからのことであって、それ以前八重洲という町名は、実は丸ノ内側の中央部一帯の地に付けられた町の名であった。こんなことを書く、と東京住いのお年輩の方々には“そんなこともあったな”と憶いおこしてくれるだろうし、お若い人達は、定めし初めて聞く妙なことと思われるであろう

徳川家康が江戸に初めて入って来たのは天正18年（西暦1590）8月とのこと。その頃は、町らしい町ではなく、今のような町名があった筈はあるまい。秀吉歿（1598年）後の家康の領地がため、国固め、殊に関ヶ原役後の実績は、ここで述べるまでもなく、よく世に知られているところ。さき頃はまた、

NHKの連続テレビドラマ「春の坂道」を見ても家康の動きがよく判る。といっても、江戸の町造りのことまでは出てこない。そこで雑文も何かの話の種となれば幸である

慶長5年（1600年）丁度関ヶ原の戦いの年といった方が判りが早い。この年の3月半ば、豊後（大分県）の海岸にオランダ船があわれな姿で着いた。船名はリーフデ号（愛の意）。この2年程前にオランダのロッテルダムを船出して、大西洋——マゼラン海峡——太平洋と廻って来た5隻の貿易船隊に属する船で、他の4艘は行方不明となった。リーフデ号の10数名の生存船員は、いろいろの経緯の後、大阪に居た徳川家康の許に呼び出され、更に江戸へ赴かせられた。その人達の中で、今もって日本と西洋に記録が遺されているのは英国人で航海長のウィリアム・アダムスとオランダ人船員のヤンヨース（又はヨーステン）他1、2名のことについてである。また、リーフデ号は、その後、江戸へ廻航の途中更に難破して沈没し、あとかたもなくなったが、その船尾を飾っていた“エラスムスの木像”が栃木県佐野市近くの竜江院というお寺に保存され、国宝として今に遺っている。（エラスムス Desiderius Erasmus, 1466? —1536, は15～16世紀のオランダの大学者で、今に同国では崇敬されている人である。）アダムス達は家康に世界地図を示して、自分らのたどった経路や航海の事跡を説明したりした。その後は、江戸にとどめられて扶持を受け、家康に西洋の事情

や、世界の状態などの知識を与えたりした。西洋式の算術、幾何学を教えたことも伝えられている。さしづめ家康は、日本で幾何学— Geometry 学習者の第一号といってよい。また、アダムスやオランダ人達は、西洋型の船も造らせられた。伊豆の伊東にその記念の地があり、毎年記念祭があることはご存知の方も多いことであろう。アダムスとヤン・ヨーステンは家康の殊遇にこたえて、帰国をあきらめ、江戸に住みついた。アダムス (William Adams) は日本橋の北に住家を与えられ、ヤン・ヨーステン (Jan Joosten) は今の丸ノ内に住むこととなった。日本橋を三越の方へ渡るとすぐ右手に駿河銀行がある。その直ぐ後の町々は、今は室町と本町何丁目とのだが、前にはその一つに安針町 (あんじんちょう) というのがあった。アダムスの住居地を意味する。安 (按) 針とは水先案内の古い言い方である。今、そこの町の一角に、日本に於ける最初の英国人を記念する碑が立てられている。アダムスはその後、日本婦人をめとり、相州三浦の逸見村 (今は横須賀市) に知行所を賜ったり、平戸の英国商館を開く手伝いをしたり、御朱印船貿易にも従事した。また日本名は三浦按針ともいわれていた。ヤン・ヨーステンの方は江戸時代の地図に、馬場先門と和田倉門の間を八代洲河岸 (ややすがし) と記してあり、その邸地の跡をたどることができる。ヤン・ヨーステンはわが国の記録では、耶揚子、弥養子、ややうす、八代曾、八代洲、八重洲といろいろに現わされている。また御朱印船貿易にも従った。

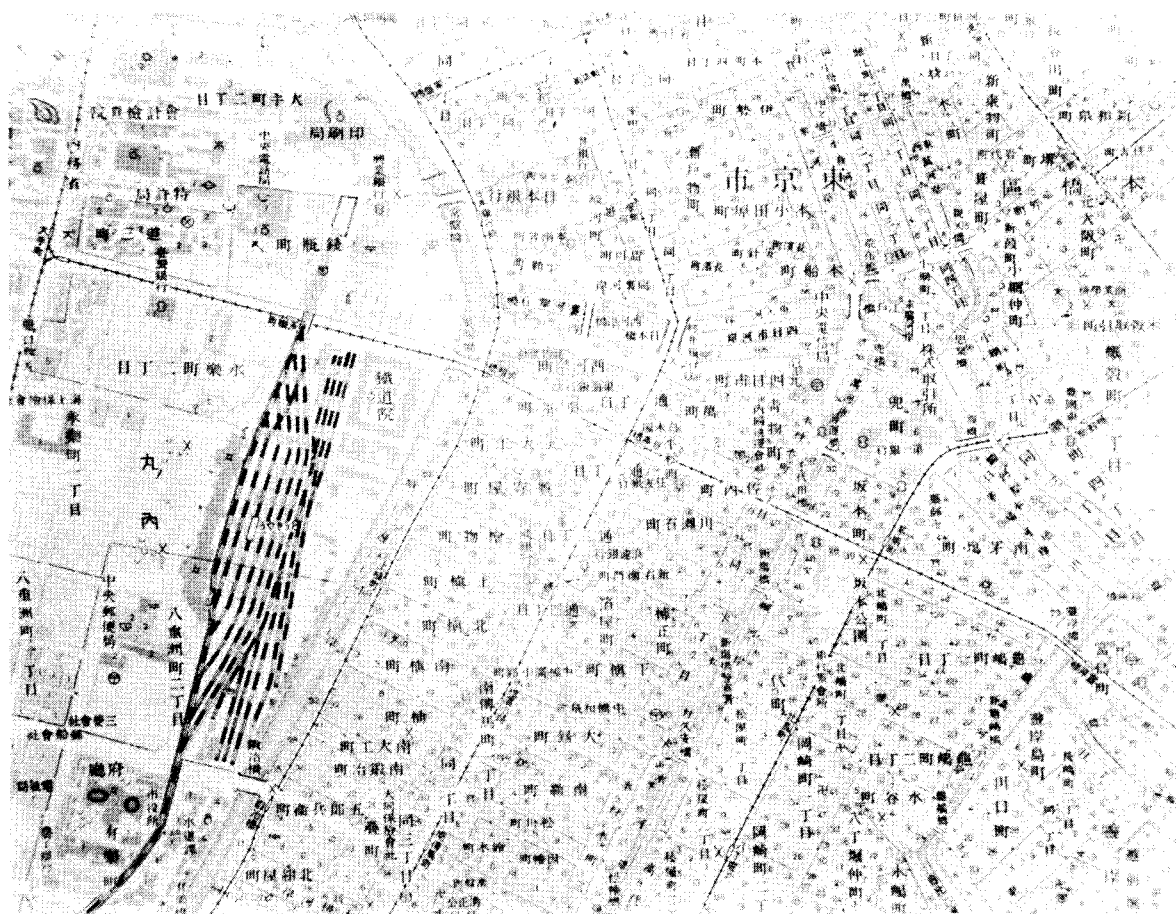
さて地名としての八重洲の名のそもそものは丸ノ内大名小路の一部であったこと、上記の如くである。明治年代になってから間もなく、丸ノ内は南は八重洲町、有楽町、北が永楽町と命名された。家康が江戸入りした、天正年間の入江から、慶長以後、漸次に城内丸ノ内譜代大名達の屋敷地となり、明治に入

って陸軍の練兵場、警視庁、司法省などの官庁街となり、三変して三菱ヶ原となる。鉄道が乗り入れられ「東京駅」ができ、大企業会社群が生れ、わが国実業の淵藪となった。しかし、その町の名は八重洲町、永楽町を廃めて今は「丸ノ内1—3丁目」といわれている。

明治23年頃、政府払い下げの10万坪前後の丸ノ内の土地を、岩崎家つまり三菱が背負い込む。当時は、貧乏簀を引いたなどといわれたそうだが、岩崎は“竹藪を作って虎でも飼うか”などと平気なものであったという。原っぱの内、八重洲町1丁目に明治27年事務所用として赤レンガ造りの西洋館が建った。当時お雇い教師、技師といわれた英国人コンドルの設計になる“三菱1号館”である。(コンドル (Josiah Conder, 1852—1920) は明治10年25才の時に来日し、工部大学造家 (建築) 学科教師として、明治期わが国の名建築家育ての親であり、また、自身明治中期に特長ある建物を多数設計した。) 続いて、明治生命保険館が馬場先門の角に建つ。次々に特長のある洋館が両側に並んで、まことにうまい俗称「一町ロンドン」の別名もつけられた。

東京駅は、その建設に数年かかって、大正3年12月に開業した。これをエホックとして、八重洲町 (丸ノ内) とその周辺は更に発展して、今日の充実した大企業諸会社の集団地となったのである。

図は大正5年版官製1万分の1の地図から抜出した日本橋付近図である。今の東京駅八重洲口の図示は全然ない。この乗降口名のついたのは駅が新改装されてからのことで、そんなに昔のことではない。それ以前に戦後の新東京の建設にともなう中央区の町名改変で八重洲 (町はつかない) 1—5丁目が生れていたのである。「八重洲」の名は、髭町丸ノ内から全然別の日本橋、京橋側へ移ってしまったのである。ここいらは、江戸時代から戦前までは余り変



らない町人町で、呉服町、元大工町、数寄屋町、松物町、上槇町などと呼ばれていた。外濠に沿っては「城辺河岸」の地名であった。この辺はまた、江戸時代末期、黒船が来た頃から芸者家、待合、料理屋の街となった。日本橋北の魚河岸や、京橋際の青物市場大根河岸や、通り町その他の大店、老舗の旦那衆、番頭さん達を迎えて、関東大震災（1923年）の後も数年間までは大繁昌の地であった。日本橋西河岸のお地藏さま（今もある）のご縁日が毎四の日。その夜の賑わいは下町の花やかさ、庶民の町らしさがあふれていた。その名残りは、今も新派名狂言の一つ泉鏡花作「日本橋」に映し出されている。主役の松物町芸者お孝の名セリフを憶い出す方もあろう。

“春でおぼろで、ご縁日……

お地藏さまが縁むすび……”

なお、八重洲橋という橋が、明治になって丸ノ内八重洲町から上槇町城辺河岸にかかった。この橋は明治、大正年代に取り払われたり、また掛けられたりしたが、今は河岸一帯が埋められて了って、その面影は求むべくもない。

（本稿を寺久保さんに渡した数日後に、八重洲名店街にヤン・ヨーステンの胸像が立てられたとの新聞記事が出た。真に“緑に連るれば唐の物”で、何かの不思議な因縁である。）

終りに参考文献を挙げて結びとする。洋書だけの主要著書のみであるが、最近レフrintが出ているものも可成りある（※印）。和書は幸田先生の著書など沢山あるが全部割愛した。

Memorials of the Empire of Japan in the XVI and XVII Centuries. Edited, with notes by

- Thomas Rundall. London, 1850. (The Hakluyt Society). ※
- De Reis van Mahu en de Cordes door de Straat van Magalhães naar Zuid-Amerika en Japan, 1598-1600; Scheepsjournal Rapporten, Brieven, Zeilaanwijzingen, Kaarten, enz. Uitgegeven en toegelicht door F.C. Wieder. 'sGravenhage 1923-25. (Lins choten-Vereeniging, No. 21, 22, 24).
- William Adams und sein Grab in Hemimura. Von Ludwig Riess. (Mitteilungen der deutschen Gesellschaft f. d. Natur- u. Völkerkunde Ostasiens, Bd. VIII, Heft 3). ※
- History of the English Factory at Hirado. By L. Riess. Tokyo. 1897. (Transaction of the Asiatic Society of Japan. Vol. 26). ※
- Letters Written by English Residents from 1611-1623, with other documents on the English trading settlement in Japan in the XVIIth Century. Ed. by N. Murakami and K. Murakawa. Tokyo, 1900.
- Will Adams, the First Englishman in Japan. A Romantic Biography. By W. Dalton. London. 1861 (1868, 1875).
- The Log-Book of William Adams, 1614-19, and Related Documents. By C. J. Purnell. London, 1914-15. (Transaction and Proceedings of the Japan Society, London, Vol. 13).
- History of Japan compiled from the Records of the English East India Company. By P. Pratt. Ed. By M. Paske-Smith. 2 Vols. Kobe, 1931. ※
- The Voyage of Captain John Saris to Japan, 1613. By Sir Ernest Satow. London, 1900. (The Hakluyt Society). ※
- The Diary of Richard Cocks, 1615-22. By E. M. Thompson. 2 Vols London, 1883. (The Hakluyt Society). ※
- Jan Compagnie in Japan 1600-1817. By C. R. Boxer. The Hague. 1936. ※
- A History of Japan. By James Murdoch and Isoh Yamagata. Vol. II: During the Century of Early Foreign Intercourse 1542-1651. Kobe, 1903, (London, 1925). ※
- Die Beziehungen der Niederländischen Ostindischen Kompagnie zu Japan im Siebzehnten Jahrhundert. Von Oskar Nachod. Leipzig, 1897.
- The First Englishman in Japan; the Story of Will Adams. By. P. G. Rogers. London, 1956.

「洋書界一年坊主のたわごと」

ブランデーならさしづめナホレオン、エキストラ、X・Oと占さとこくを誇る洋書界。私のような半可通が拙文を草する非礼をお許し戴きたいが、安物のワインでも結構酔えるとか？ まあひとつ、新前のたわごととお読み捨て下されば幸いです。

◇

一本屋稼業はやくざさ一本が好きで、しかも洋書というと何となくスマートで、知的で、ちょっぴり女性にもてそうで、この世界に飛び込んだのだが、先輩のぶっきらぼうなことばには驚いた。やくざと床屋には生来なじめないが、今さら悔やんでみても仕方がない。ままよ！ やくざだって清水次郎長みたいな大人物もいるのだと気を取り直した。

◇

半年ほどたってひとり歩きが許された。初めてお客さんのところに行って、本を売ったときの体の震えは今でも覚えている。買ったほうも、若いのにア

ル中かと、変に思ったかも知れないが……

しかし、日を迫うに従いゆとりができ、暇なときには世間話しのひとつもできるようになった。本好きに悪人はいないというのが、お互いしゃべっているうちに、ビブリアマニア同士のよしみもあって、ダベリングに花が咲いてくる。

そんな対話を通して、顧客との触れ合いが——商売を抜きにした、友情に似た感情が芽生える。恐らくこれは、本という特殊な商品のおかげであろう。書籍は、車や家電製品のように物質的な豊かさではなく、知識や情報の伝達という精神的な側面に関係している。

そのため、本を購入して勉強しようとする人、とりわけ洋書を買ってまで知識を吸収しようとする人は、我々セールスマンを単なる本の配達夫としてではなく、諸外国の珍しい数にのぼる書籍や文献に通じた情報コンサルタントとして見る。仕事に追われ

ている自分にかわって、最新の知識を的確にもたらすミネルバのふくろうとして遇してくれる

そういう真摯な顧客の態度はこちらに反映し、とかく惰性に流れがちな日常業務から我々を救い出してくれる。そしてそれは、高度経済成長のもとに物質文明の恩沢を余りにも受け過ぎた現在の日本人が、既に忘れかけているなにか——外国書籍セールスという職業に、このなにかが、かすかに生き続けているのではないかと思うのは、私のひとりよがりであろなか。

——本屋稼業はやくざさ——私は先輩の短いことばに深い意味の含まれているのを知った。一見すると現代的でドライな洋書販売業には顧客の求めに応じて、それぞれの本の内容を吟味し知識を提供していくという、非常に職人的な感覚が必要なのだ。そして、いったんこの感覚を身に付けてしまうと実に楽しく、本の世界から足を洗おうなどとは思わなくなる。確かに本屋稼業はやくざと同じだ。

(株)ミロブックサービス ブックコンサルタント

船水 和男

食 品 公 害 の 基 礎

白 石 昌 美

食品という商品の開発と取組み出して30年を経たが食品という商品は食生活を通して手近にあるため家庭の主婦をはじめ一般には専門家といえない人々より色々と批判され易く、おまけに食通、食道楽、学識者といわれる人々が新聞、ラジオ、テレビなどのマスコミ媒体で間違った説明をたくさん流して呉れるので色々な問題が生じている。諷刺小説などで時代を間違えた食物が現れるのは訳者の不注意と考えて読めば良いのだが何も知らない若い人々には外国の経済史的背景などを誤解させる種子にもなっていくよう、まして劇化されテレビなどに上演される時に中世の騎士のそばを20世紀になって改良された馬や豚が歩いていたのでは、日本の戦国時代の軍兵が白米のむすびを食べているより奇妙な感がある。通訳が食品のことを正式に知らないため誤訳し、それで会議がややこしくなることも多い。過日もJETRO主催のセミナーで東南亜諸国の講師が食品を日本へ売するための話の中で盛んにマッシュルーム (Mush Room) というのだが同時通訳者が、これを全部松茸と訳していた。同じ席で各国の行政官がバナナ (Banana) の説明をしていたが色、形、味の違うバナナを同じ言葉で説明していた、あれでは東南亜諸国より安心して輸入が増やせないはずだと感じ入った。一般にバナナと呼ばれる果物は大別して約300種に分けられる、亜種を含めると約1,000種を超えると考えられる。私の少ない経験でも味、色、形の違ったバナナを約120種食べている。変わったものでは南太平洋産の皮の色は赤(紅)、直径3cm、長さ60cmというものもあったし、皮の色は赤、紅、紫、

桃色など、バナナの皮は黄色だとばかり考えていたら偏見だといわれかねない、バナナの出産地は香料諸島から小スンダ列島のあたり、これが大スンダ、マレー半島、インドを経て古代ギリシャ、ローマ時代に地中海辺まで伝えられている。不思議に古代エジプト王朝に資料がない、一方インド、マダガスカル、アフリカ沿岸経由、ギニアからカナリア諸島を経て西インド諸島へ伝えられるが、時代はかなり遅れている、別に小スンダから島づたいに太平洋をこえてポリネシア人により中南米へ伝えられたと信じられている。日本へは天保年間、ハワイ又は小笠原のものが江戸に伝えられている、こうした歴史のあるバナナも日本では台湾バナナが有名であったために先入観が支配しているようである。チョコレートは近代のものと考え人が多いのだが西暦紀元前200年にメキシコ王朝で生産され、飲まれている、当時よりカカオ豆は通貨として量産管理されていた、当時のチョコレートにはすでにバニラ豆 (Vanilla Bean) が精力増強作用を認められて、粉末やエキスの形で混合されて居り、王族、貴族間で珍重されていた、ヨーロッパへはスペインのメキシコ支配で伝えられスペイン王朝の貴顕に重用された、この珍しい宝物はやがてオランダ海軍(海賊?)によりオランダ(ドイツ人)に伝えられ、ドイツ人のスイスにチョコレート産業を育てることになる、一方フランスにはスペイン、オランダから伝えられ、特に精力剤として貴重なバニラ豆がIce & Cream(所謂Ice Creamとは発生、用途が違う)などで活用され、やがてマダガスカル島のバニラ畑に発展して行くわけ

で、タバコ、チウインガムなどと共に日本人に誤って知られている部分が多い。

名前が似ていて内容の違う食品も色々ある。かつて英国でサイダー (Cider) を飲んで雌とらに化けた日本の婦人代議士がいた、本場のサイダーをりんご酒と知らず日本式のサイダーと間違えたというのだから常識外である、海外旅行を終えた人がよく私がアイスクリームの本を著しているために「外国のアイスクリームは美味だが、日本のアイスクリームは何でこんなに不味いのか」と小言のお土産を頂く、そのたびに弁解させられる (20年前も今も同じ) のだが英語で Ice Cream と表現されるものにも各国の規格で色々あることをご存知の方は少ない、米国で Ice Cream と呼ばれるものが英国では Dairy Ice Cream と呼ばれ、英国の Ice Cream は乳脂にこだわらない、デンマークでは9%以上の乳脂 (バター分) を含めない Ice Cream とは考えられていない、日本では連合軍占領下に米国なみに1年ほどなかった以外は、乳成分3%、乳脂3%以上と逐次規格が向上し、最近米国なみになったばかりである、経済大国といわれるがやっと実力がつき出した所で、これからなのである。その代り衛生面では厳しく国民の保健衛生を守る姿勢は世界でも指折りのものである、例えば日本のアイスクリームでは大腸菌は零でなくてはならないが、デンマークでは1cc当り150個は認められているし、米国では未だ大腸菌を制限していない州がある、そこで日本式の衛生管理だと考えて大量に食べれば、とんでもない病気のお土産が付くことは確実で、外国旅行以来体の調子が悪い

とか、奇形児が生れたといった話も出るわけである。衛生対策の点で最近怖いのは貿易自由化とドル対策の余波で世界中の加工食品が輸入されているが税関での防疫体制の不備からチェックが完全でなく欧米などの珍病奇病が国内に持ち込まれていることである。

最近になって Y. ENTEROCO LITICA という新しい腸炎菌による食中毒が日本各地で発生し衛生関係者をあわてさせているが、これは北欧、欧米にあって日本にはなかった菌である。症状は10才位までの子供では急性胃腸炎を、中学生以上の成人では盲腸炎と診断され手術を受けるケースも多く、高年令者ではリウマチ、関節炎などの形で半身不随となる人も出ている、一般に39°Cの発熱、下痢などのため不慣れた医者では夏カゼ位と考えて大事に至るもので原因は豚、牛肉の加工品 (ハム、ソーセージの類、生焼きのステーキなど)、牛乳、アイスクリームなどで、対策が充分にならない限りヨーロッパ産のハムベーコン、ソーセージ、チーズなどは成るべく食べない方がよいようである、この菌は熱にも強く100度で2時間煮ても充分でないという報告もあり対策に骨を折っている、更にこのような新しい病原菌が1ダースも上陸し、加えて外見はボラ、ニシンという毒魚が輸入され、また発ガン性物質を含む果物や植物などが輸入促進の国の方針に便乗して来るという有様で対策に大変な現状で、この辺にも海外の文献情報の必要性が痛感されると共に本ものの食品公害の源は食品についての偏見、間違った先入観、誤訳、誤著述などに発しているのだと思われる。(技術士 (農業部門) 食品衛生管理士)

会 員 紹 介

日本ウエスタン・パブリッシング株式会社 (賛助会員)

代 表 者 芦 田 郁

米国の Western Publishing Co., Inc. は児童本、幼児教育関係の図書、教材などの出版製作で定評のある出版社で、日本ウエスタン社は、これらの出版物、教材の日本および極東における販売業務の管理と、翻訳など版權折衝の窓口としての役割を果たしている。Western Publishing Co., Inc. は、印刷業とし歴史の古い Western Printing & Lithograph Co. が1942年に Golden Press Co. を吸収して設立したもので、Little Golden Book のシリーズなどで一般に親まれている。最近では日本ウエスタン社の仲介で、中央公論社、講談社、学研などから児童向の翻訳優良図書が次々と出版発売されていることはご存知の方も多いことと思う。

そのほか、系列会社であるパリの E. A. Duval 社、ミラノの A. Mondadori 社の業務も担当している。

岩本町の日本ウエスタン社オフィスは、カラフルな出版物見本が整然と陳列され、多忙な中にも落着いた雰囲気があるショールームになっている。

「英国書籍の平均単価」

「ブックセラー」誌の発表によれば、1972年後半（7月～12月）において英国では1,735の出版社から17,005点の書籍が出版され、その定価合計は£56,120・41であった（従って平均単価は£3・30である（前半1～6月期では、1,673社から15,467点出版され、平均単価は£3・13であった））

このうち新刊書は12,656点で定価合計は£40,992・15、平均単価£3・24である（1月～6月期では、11,531点で平均単価£3・11）重版は4,349点で定価合計£15,128・26、平均単価£3・47½である（1月～6月期では、3,936点で平均単価£3・24½）

前年同期（1971年7月～12月）と比較すれば、1,581社より15,772点出版され、平均単価£3・02であった。このうち、新刊は11,807点で平均単価£2・97½、重版は3,965点で平均単価£3・14であった

全体では前年の£3・02から£3・30に上っているから、9½パーセントの上昇である。これは明らかに英国の一般のインフレ傾向を反映している。

新刊書の平均単価は過去1年間で£2・97½から£3・24に、従って9パーセント上昇した。1966年1月の平均単価は£1・68であったから、6年間で倍になったわけである。

出版点数の最も多い小説は、1972年7～12月では889点、前年同期では937点出版されている。出版点数は下ったが、平均単価は£1・54から£1・69へ10パーセント上った。しかし6年間では倍にはならず85パーセントの上昇である。

重版は、1972年後半期では前半期の£3・14から£3・47½と11パーセントもの上昇を示した。これは、特殊な限定版やファクシミリ版のリプリントを行っている数社の出版物が大きく影響しているようである。

（The Bookseller, 1973年1月20日号より）

「ランダムがバレンチンを買収」

RCA Corporation の系列下の出版社 Random House は、このほど、大衆市場向けペーパーバックの出版を主体とする Ballantine Books を獲得した。Ballantine は1969年以来、Intext, Inc. の子会社となっており、買収契約はこの Intext, Inc. との間で交わされた。買収金額は約640万ドルで、1974年1月から1978年1月までの延べ払いとなっている。

Ian Ballantine 氏は同社の経営陣に残るが、同氏は1939年にペンギンブックスを米国に導入して出版業界に入り、1945年には Bantam Books の設立に参加、1952年に独立して自社を設立、オリジナルの科学空想小説、戦記もの、成人向け空想ものやノンフィクションに独自のものを切りひらいてきた。

Ballantine Books は Random House の中に吸収合併されるのではなく、独立した子会社として系列下

に入り、従来のインプリントで出版を続けるが、特に地域に結びついたものやトピカルなノンフィクションを充実させて行く計画である。(Publishers Weekly, 1973年1月15日号より)

「アメリカの新リプリント出版社紹介」

White Lion Publishers, Inc. (25 West 43rd Street, New York 10036) は、有名な作家のホビュラーな小説の絶版本のリプリントを専門とする出版社としてこのほど設立された。例えば、Leslie Charteris, James Aldridge, Edgar Wallace, Louis Golding, Stella Gibbons, John Harris, Israel Zangwill などのものが予定されている。

同社は、フィクション、ノンフィクション合わせて月に10点ほど出す予定で、全点ハードカバーで四色のジャケット付、平均\$5.95程度の価格にするとのこと。これらは、大部分アメリカでは初の出版である。

この新社のディレクターは Barry Spatz 氏で、同氏は前の Drake Publishers, Inc. の出版責任者で、Alanhouse, Inc. の現社長でもある。Liveright Publishing の前セールス・マネージャーの Maurice Spivak 氏が副社長に就任した。

Hyperion Press (45 Riverside Avenue, Westport, Connecticut 06880) も新たに創立されたリプリント出版社であるが、このほど同社の出版計画を予告する最初のカatalogを配布した。

同社の最初のシリーズは、中国の古代から20世紀の共産政権確立までの文献を含む35巻もので、今春に第一巻刊行の予定である。次にはロシア研究のシリーズを予定している。後にはリプリントばかりでなくオリジナルも手がける模様

同社の社長は Hal Dareff 氏で、同氏は、Grosset & Dunlap, Parent' Magazine Enterprises, Dell, New American Library, Grolier, Greenwood Press などの編集者、出版者、コンサルタント、作家などとして20年以上のキャリアを有している。(Publishers Weekly, 1973年1月22日号より)

—— 紀伊國屋書店提供 ——

ニ ュ ー ス

- 米国 Kraus Periodicals Co. の Mr. Frederick Altman 及び Manager の Mr. M. Jerry Alper 1月中旬来日。
- 米国の代理店 Kaiman and Polom の Mr. Polom 1月中旬来日
- 米国 Times Mirror International-Medical 社の Managing Director, Mr. M. L. Ponte 1月下旬来日。
- 米国 Prentice-Hall International 社の Asst. Vice-President, Mr. R. L. Mead 1月下旬来日。

通 関 統 計

外国貿易概況（大蔵省関税局編、日本関税協会発行）1972年10月号所載。

書籍、新聞、雑誌の輸入額。

昭和47年10月 \$5,063,000 1月以降累計 \$51,255,000

昭和46年10月 \$3,438,000 " \$21,533,000

（註）昭和47年1月より、郵便物による通関分を含むようになったため前年比が急激に上昇している。

総代理店ご案内

次の通り日本総代理店の案内がございました。お手許の Agent List にご記入願います。

北尾書籍貿易(株) ☎ (06) 203-5961
(03) 573-3031

Lee & Febiger

Smith, Jones & Hunt:

Veterinary Pathology, 4th ed., 1972 ¥11,700

丸 善 (株) ☎ 272-7211

Churchill Livingstone

Wright, G. P. and W. C. Symmers. -

Systematic Pathology. 2nd edition 2 Vols.

Price not set

North-Holland

Srivastava, J. N., F. Harary, C. R. Rao, G. C. Rota
and S. S. Shrikhande (eds.) -

Survey of Combinatorial Theory. ca ¥12,000

Springer

Schmid, F. -

Pädiatrische Radiologie. 2 Bde.

Bd. I: Stützgewebe - Zentralnervensystem -
Syndrome.

II: Inner Organe.

Bd. I. Sub. Price ca ¥22,820

Regular ¥28,520

S. Karger

Pharmacology and the Future of Man, Proceedings of the 5th International Congress on
Pharmacology, San Francisco, July 1972.

4 Vols. set ca ¥37,480

J. B. Lippincott

The United States Dispensatory and Physician's
Pharmacology. 27th edition. Ed. by A. Osol
and others.

Price not set

North-Holland

Lima-de-Faria, A. (ed.) -

Handbook of Molecular Cytology. (Frontiers
of Biology Vol. 15) Paperback Ed. ca ¥14,400

「協会にのぞむこと」

——会報委に寄せられた会員の声

会報も本年で通巻第七巻を数えるにいたった。この間、何度か誌上で「協会にのぞむ」をテーマとする投書を募ったが、それに応じたものは皆無に近い。しかし投書以外の形で、直接、間接会報に寄せられた会員の声は、相当数にのぼり、今回一応それらを簡単に整理してここに掲載することとした。これが契機となって、今後さらに活潑な意見交換が行われ、実りあるものとなることが編集部の願いである。

(一) 努会のあり方に関して。——「他業界の業者団体と比較すると、少々おっとりし過ぎていて活動も不活潑なのではないか」「や、マツネリ化しているように思われる」という批判と同時に「協会そのものを別箇の存在として、それが業界を指導、或いは後押しをする方向にもってゆけないのか」といった積極的な意見もある。また「中小業者本位にものごとを考えて欲しい」「具体的にメリットとして感じられることを増やして欲しい。一例をあげれば古書の価格査定などのように」などの意見も多い。

(二) 協会の日常活動に関連して。——「協会事務所を神田に移すことは出来ないか」「会合場所として学士会館や如水会館を使ったら」という提案が、本郷・神田地区の会員の方から寄せられている。また「委員会をはじめ、各種会合の時間が午後二時半というのは半端で困る」「店をもっているものにとって、会合時間は夜が好ましい」というものもある。

(三) 業務に関連して。——「共同仕入のことなど難しい点も多いだらうが研究する必要があるではないか」「シベリア経由の輸入の方途を担当官庁と接渉して開いて欲しい」といった仕入に関する事、また「大学関係の請求書類等の簡素化・統一化を図ったらどうだろう」との意見も多く、それらの中には「現状では大学当局・文部省・業者の皆が大変な損をしています」との但し書きを付したものもある。業者にとってまことに頭の痛い売掛回収の問題について「クレジットカードを導入普及する方法を考えて欲しい。但し現在の各銀行・機関毎のものではダメ。銀行協会の何かの統合カードが出来ると良いのだが」という提案もあった。（文責・会報委）

お詫びと訂正

会報 Vol. 7, No. 1 (昭和48年1月号) 7頁、会員紹介コウケクブックはコウケンブックの間違いですので、お詫びと共に訂正させていただきます。

近刊／ご注文承り中

1848年革命 125周年記念出版

リプリント版 **新ライン新聞**
Neue Rheinische Zeitung
Organ der Demokratie

Nr. 1—301. Nachdruck (Köln, 1. Juni 1848—19. Mai 1849). Hrsg. von St. Nauth u.a., In der letzten rotgedruckten Nummer Karl Marx. Redaktion: Karl Marx (Redakteur en Chef), H. Bürgers, E. Dronke, F. Engels, G. Weerth, F. Wolff, W. Wolff.
Mit neuerstellten analytischem Inhaltsverzeichnis und Register, ca. 1800 S.
Verlag Detlev Auvermann, Glashütten im Taunus,
1973 **2 Bde. Lwd. ¥109,200**

ドイツ社会民主党機関誌
Die Neue Zeit

Wochenschrift der Deutschen Sozialdemokratie

Redigiert von K. Kautsky und H. Cunow

Jg. 1—41 Bd. II, Heft 1—10. Berlin 1883—25. August 1923. In 74 Lwdbdn. Mit einem General register für Jg. 1883—1902 und einem neuerstellten Autoren- und Sachregister für Jg. 1903—1923. Nachdruck 1971—74.

Verlag Detlev Auvermann, Glashütten im Taunus

次回配本 **Jg. 9—13 in 10 Bdn. 1891—1895**
ca. ¥162,000
発売中 **Jg. 1—8 in 8 Bdn. 1883—1890**
¥115,000

日本総代理店 **極 東 書 店**

東京都千代田区神田神保町2—2

大阪・京都・福岡

昭和48年2月 通巻第70号 洋書輸入協会 編集者 寺久保一重

☎ 103 東京都中央区日本橋1丁目20番3号 藍沢ビル302号室 ☎ 271—6901

☎ 530 関西支部 大阪市北区芝田町28 第一山中ビル ☎ 371—5329